

年頭のあいさつ

人口60万人突破の大川口市
節目の年を迎えて

市長 奥ノ木 信夫



新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、平成30年の清々しい新春を健やかにお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

本市は昨年12月に人口60万人を超え、政令指定都市を除けば全国で3番目の人口を有する大都市として成長を続けています。

早いもので市長就任から4年が経とうとしています。昨年までを振り返りますと、中核市への移行が昨年11月に正式決定したことをはじめ、公約のほとんどを実現もしくは着実にレールに乗せることができました。これらはひとえに、市民の皆様のご理解・ご協力の賜物と、改めまして心から感謝と御礼を申し上げます。

本年は川口市にとって記念すべき節目の年となります。まず、4月1日に「中核市川口」が誕生し、福祉・保健・医療分野をはじめ多くの権限が埼玉県から移譲されます。移行後は、身近な市がこれまで以上にきめ細かな行政サービスを提供して参ります。

次に「3大プロジェクト」ですが、新庁舎建設は1期棟工事に今月から着手します。災害に強く、環境にやさしい、だれもが利用しやすい庁舎を実現して参ります。

また、川口市めぐりの森（火葬場）は、建物本体が完成し、4月に開設します。隣接するイナパーク川口（赤山歴史自然公園）も4月に一部供用を開始し、新たな賑わいの拠点として、

大人も子どもも楽しめる場となるよう努めて参ります。

そして、川口市立高等学校は校舎棟が完成し、いよいよ4月に開校します。志願者が募集人数の約2倍と、新校の魅力が十分に伝わっているようです。今後も多くの中学生から選ばれるよう努めて参ります。

さらに、市税などの徴収に努めるほか、子育て・保育環境の充実や防災・防犯体制の強化など、さまざまな施策に取り組み、「選ばれるまちづくり」を積極的に推進して参ります。

結びに、新しい年が市民の皆様にとりまして、明るく希望あふれる飛躍の年となりますよう、心から祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

愛着と誇りを持てる
まちの実現に向けて

議長 若谷 正巳



新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、晴れやかで希望に満ちた初春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、花咲徳栄高等学校が埼玉県勢で初めて夏の甲子園制覇を成し遂げたほか、中学生プロ棋士の藤井聡太四段が二十九連勝を果たすなど、文武にわたり、才能豊かな若者が活躍する姿に、胸が高鳴った年でありました。

さて、昨年の本市議会を振り返りますと、まず、6月定例会におきまして、議員提案による政策条例「川口市手話言語条例」を可決、成立いたしました。この条例は、手話に対する理解の促進と普及に関する基本理念等を定め、市民の皆様が障害の有無にかかわらずに

共生できる地域社会を目指すことを目的としたものです。

また、一般質問においては、延べ56人が登壇し、災害対策、子育て支援、産業振興、教育、都市基盤整備など、様々な分野について数多くの質問、提言を行い、市民生活の向上のために活発な議会活動を行って参りました。

さらに、情報通信基盤整備の促進や中小企業対策など8件の意見書を採用し、内閣総理大臣をはじめ、関係大臣あてに送付しました。

さて、本市は、人口60万人を超える大都市となり、市民としての一体感を醸成するために、地域の絆づくりが大切であると考えるところです。

そこで、新年を迎えるにあたり、私

ども市議会といたしましては、若い世代を始めとして、すべての市民の皆様が地域の絆で結ばれ、「ふるさと川口」に愛着と誇りの持てるまちの実現に向けて、市民の皆様からの信頼に応えるべく、市政運営に対する監視機能をしつかりと果たしつつ、本市の地域特性を踏まえた政策提言を積極的に行えるよう、全議員一丸となって、誠心誠意取り組んで参りますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が市民の皆様にとりまして、健やかで幸せな年となりますことを心から祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。